

アンケートの結果について
〈会の存続の賛否〉と〈今後の方針〉

第4回運営委員会（10月14日）の時点で会員総数114名に対してハガキの返信が届いたのが60通で回答率51%であったため、10月末まで延期したうえで再度事務局からメールにて未回答者に連絡しました。

第5回運営委員会（11月12日）の時点での結果を報告しますと、会の存続を希望する会員が18名、会の閉会を希望する会員が57名、無記入が3名、△が1名という結果でした。ちなみに回答者は86名で75%の回答率、未回答者は28名でした。

「会の閉会」にチェックされた会員には、「非常に残念だが、仕方がありません」というご意見が数多く寄せられました。また「会の存続」を希望された会員のご意見は「ぜひ継続してほしい、規模を縮小しても継続してほしい」というコメントでしたが、会の存続するための運営についての具体的な案についてのご提案はありませんでした。

会員総数114名に対し「会の閉会」57名はちょうど半数にあたります。この割合が会を閉じるにあたって充分かどうかは判断がつかかねる数ではあります。この件に関して慎重に討議した結果、運営委員会では「会の閉会」という結論に至りました。その大きな理由は、運営委員経験者および現運営委員の大半が「会の閉会」に賛同したことにあると考えます。国際交流展が中心となる版画京都展実行委員会の運営は、事務局並びに各種委員の大きな負担となります。選挙はありますが、ほぼ同じ顔ぶれが運営委員のメンバーになり、その役割が継続してしまうことに問題があったのではないかと思います。

それでは「いつ会を閉じるのか？」ですが、版画京都展実行委員会が発行元である「京都十景」の第10巻が発行され「京都百景」となる2023年を目安にするという案が提示されました。それまでの6年間は国際交流展を企画せず、今回実施する地域ブロック展の形式を隔年で進めていくという計画です。

最終的には今年度末の総会で「会の方向」を決定しますが、それまでに会員の皆様のご提案を事務局にお寄せいただければと願っていますので、よろしくお願いいたします。

（文責：武蔵 17/11/13）